

令和 7 年度

5 月定例教育委員会

会 議 録

(公 開)

令和 7 年 5 月 1 5 日

## 1 開 会 14時00分

教育長から、「議題第3号」、「議題第4号」及び「議題第5号」については、個人情報を含むものであることから、「その他②」については、議会上程が予定されていることから、非公開での審議が適当である旨の提案がなされ、出席者全員で異議なく決定した。

## 2 前回の会議録の承認

教育長から、令和7年度4月定例教育委員会の公開部分の会議録の承認について諮られ、出席者全員で異議なく承認した。

## 3 議 事

### ◎ 議題第2号 県立特別支援学校の部及び高等部の学科等に関する規則の一部改正について

#### 特別支援教育課長

(資料に沿って説明)

説明は以上です。

#### 教育長

この件に関して、御意見、御質問等ありませんか。

#### 松山竜也委員

特別支援学校の高等部のみを設置する高等特別支援学校ですが、この3校に設けられる学科名である職業科について質問させていただきます。この名称については、十分に議論や討論を重ねた上での判断ではあると思いますが、職業科という名称にやや堅さがあり、抽象的で機械的な印象を受ける部分があります。特に、この学校の大きな3つの特色である就職100%を目指す就職支援に加え、デュアルシステムの導入や交流・共同学習の充実といった教育の内容を考えると、就職に偏った印象を与えるという懸念があります。生徒一人一人の社会参加や自立を支える学びを表すという意味でも、もう少し親しみやすく、学校や3つの大きな特色の他の部分が伝わるような学科名は他に検討されたのでしょうか。

#### 特別支援教育課長

学科名につきましては、高等特別支援学校は、働く力を身に付けることを第一の目的としております。専門教科としては、農業、流通サービス、福祉を履修しますが、そのような学習を通して、生徒の実態や希望、地域の実情等に応じて社会参加を目指していきま

す。名称については、例えば、他県にある農業科、流通サービス科というような特定の職業や分野をイメージさせる名称は、学科としてはふさわしくないと考えたところです。

また、日南くろしお支援学校、都城きりしま支援学校、延岡しろやま支援学校、宮崎中央支援学校には職業コースがございまして、生徒や保護者、教職員がイメージしやすいと判断して職業科としたところでございます。

委員がおっしゃったように、共生の趣旨やデュアル教育システムについては、これまでも学校説明会等で十分に話をしておりますので、今後もこれらについてはしっかりと柱に据えて説明していきたいと考えております。名称については、そういった経緯を受けて名付けたところでございます。

#### **松山竜也委員**

今回の判断については、他県の状況なども大きく踏まえた御検討があったかと思いますが、学科名というのは学校の特色や魅力を伝える大事な要素になろうかと思うので、一つの意見として、お受け取りいただければと思います。

#### **特別支援教育課長**

そのような意見については、今後、説明していく中でしっかりと生かしていきたいと思っております。

#### **木村委員**

職業科という名前を聞いた時に、その学校の特色である就職率100%を目指すために、その職業を学ぶということを全面に出す学科名だと感じました。一般就労に向けて、子供たちが専門的に深い学びができるような教育課程を編成してほしいと思っておりますし、教える先生方も職業に関し専門性が高く、精通した教員の配置等もお願いしたいと思っております。

#### **特別支援教育課長**

委員のおっしゃるとおりでございますので、配置については、関係課と検討しながら取り組んでいきたいと思っております。また、内容については、関係の協力高校や併設高校などと教育課程を昨年度から検討しておりますが、これからさらに細かな部分まで検討していくことになると思っておりますので、そのような部分についてももしっかり対応していきたいと考えております。

#### **教育長**

よろしいですか。

それでは、この件については、案のとおり決定いたします。

◎ その他① 令和6年度特別支援学校高等部卒業生の進路状況について

**特別支援教育課**

(資料に沿って説明)

説明は以上です。

**教育長**

この件に関して、御意見、御質問等ありませんか。

**柳委員**

訓練機関のところですが、進路については昨年が1人であったのが4人に増えていることについて、職業に就く前にもっと力をつけたいという思いがあるのかと考えます。職業能力開発校で学んだ生徒さんは、その後どのように考えているのか、どのような就労が多いのかについて教えてください。

**特別支援教育課長**

就職者が33名で、就職希望者に対する割合が89.3%でした。その中には、就職ができずに職業能力開発校に行った生徒さんもいらっしゃるとお聞きしております。そういった生徒さんも含め、職業能力開発校でさらに学び、高等特別支援学校の目指すものと同じで、一般企業に障がい者雇用枠を使って就労するという道に進んでいるところです。

**柳委員**

一般就労とA型の就職がありますが、A型において就労の継続支援を受けながら働くことができ、いろいろな支援や勤務時間、業務内容も柔軟になっているとお聞きしています。障がいの度合いによっても違いはあると思いますが、就労移行支援に関して、子供たちの違いというものがあれば教えていただけますか。

**特別支援教育課長**

就労移行支援については、将来就職を目指していくところになりますが、以前は就労移行支援に行って就職という生徒さんが多かったところです。もともと目指すところは就職でございますので、や

はり特別支援学校高等部を卒業して就職するということが大きな目指すところになっております。高等特別支援学校についても、そのようなニーズに応えることができるようにしていきたいと考えております。

就職率を上げるためには、就職希望者の数を上げるということが第一にあります。それは、就職希望者にみる就職率というのは、90%前後と高く、就職率を上げようとした場合、就職希望者の数を増やすことが就職率を上げることに繋がっております。高等特別支援学校では、すべての生徒さんに対して障がい者雇用を前提とした卒業後の就職を考えておりますので、そのような意味でも、就職率の向上につながっていくものと期待しております。

なお、先ほど就職希望者に対する就職率について 89.3%と申し上げましたが、89.2%に訂正させていただきます。

#### **柳委員**

高等特別支援学校ができることで、就職希望率もより高まるのではないかと期待しております。

#### **松山竜也委員**

高等部卒業生の約7割の方が福祉サービスを利用しているという現状の中で、一般就労等への移行を目指す生徒さんが一定数存在しており、就職希望者に対する就職率が9割近くに達しているということは、普段から現場で丁寧に生徒さんと向き合い、進路に向けて熱心に支援してくださっている結果だと感じております。

高等特別支援学校の就職100%を目指すという部分については、就職希望者に対する就職率100%を目指すということによってよかったでしょうか。

#### **特別支援教育課長**

高等特別支援学校は、卒業後に障がい者雇用枠を利用して就職を目指す学校ですので、入試についても、保護者や生徒さんに対して説明しております。入学される生徒さんは、就労を目指す生徒さんであるとして私たちは理解しております。

#### **森山委員**

進学されている生徒さんが2名いらっしゃいます。大学に1名、専修学校の1名ということですが、どのような進学をされたのか、どういうことを学んでいかれるのかを教えてください。

### **特別支援教育課長**

特別支援学校には高等学校に準じた教育課程があります。例えば、聴覚障害や視覚障害、病弱の方々は、高等学校の普通科と同じ内容を学習しますので、大学や専門学校に進学するということは毎年ございます。今回の生徒さんについては、個人情報のため詳細は控えさせていただきますが、医療福祉関係や動物関係の進学でございました。

### **教育長**

就職状況については、学科名の中でも御意見がありましたが、教育内容等も含めて、高等特別支援学校を設置いたしますので、その効果等を確認することも含め、丁寧に把握していく必要があると考えております。

### **◎ 次回会議の日程等について**

#### **教育長**

それでは、次回定例会は、6月27日、金曜日、14時からとなっておりますのでよろしくお願いします。

これより後、会議冒頭の決議により非公開とします。

傍聴者の方は、御退席をお願いします。

暫時休憩とします。

(14:25終了)